

子育て・介護・貧困で 苦しむ人の気持ちがわかる

さとう直子さんを市政に

さとう直子の歩んできた道

母子家庭で苦難の少女時代

さとう直子さんは、7歳の時両親が離婚し、祖父母に預けられて育ちました。当時村で珍しい「母子家庭」や東京育ちのお母さんの影響で東京言葉を話していたためか学校でよくいじめられました。

母から聞いた「東京大空襲」

さとうさんは、お母さんから「東京大空襲」の話は何度も聞かされました。その悲惨さを鳥肌が立つ思いで聞き、子どもながら、戦争はいけないことだと強く思ったことを今でも覚えています。

3人の子育てに奔走



さとうさんは22歳で結婚し、その後、2男1女の3人の子どもを授かりました。娘さんは小2の終わり頃から、「不登校」が始まり中学校卒業までおよそ7年間、学校に行きませんでした。幸いに教師に恵まれ高校にすすみ、無事に卒業し、今は、自立しています。

献身的に奮闘する日本共産党員に感動

さとうさんが三鷹で暮らしていたころ、保育料値上げ反対運動のなかで、その先頭に立ちがんばっていた日本共産党のみなさんと知り合い、市民要求実現に献身的に奮闘している姿に感動し、その一員になって、世の中に役に立つ人になりたいと思いました。

「親の介護」で矛盾を痛感

さとうさんの子どもたちが、それぞれ自立

すると、親の介護が始まりました。

諸病にかかり、さらに認知症となり、ひとり暮らしができなくなると、東村山で同居しての介護となりました。



家族が不在のある日、お母さんの行方がわからなくなってしまいました。幸いにも知り合いの人が見つけてくれて大事にはいりませんでした。同居してから介護についても、さまざまな介護保険の制約があり、望む介護が受けられないことも多くあり、一人暮らしの時も含め8年間不便を感じました。

介護で困っている人の役に立ちたい

さとうさんはお母さんの介護の経験から、ガラスや換気扇の掃除など「介護保険」ではカバーできない部分をサポートできないかと考え、地域の人の協力を得て「おたすけ小組」を立ち上げて、介護で困っている人を支える活動をはじめました。スタッフを賠償保険に入れるためにNPO法人になることを申請しようと、何度も都社会福祉協議会に通い、大変な申請書類を一人で作りしました。苦労がみのり2012年にNPO法人の認証を受けました。

おたすけ小組



おたすけ小組は2010年に地域の高齢の人から、「大掃除に手が回らないので手伝ってほしい」と依頼を受けて、立ち上げメンバーの人などが手伝ったことがきっかけになり作られました。

さとう直子さんとバトンタッチします



お母さんの介護経験から、NPOを立ち上げたさとう直子さんだからこそ、どんな問題でも市民の立場で取り組むことができます。さとうさんへ私に倍するご支援を心からお願いいたします。

福田かづこ市議（富士見町）

さとう直子さんに期待します



さとうさんは、「おたすけ小組」などで、責任感と行動力で問題解決の道を探し実践してきました。

小松恭子元都議（美住町）



消費者には増税、大企業には減税。許せません。弱者の味方「さとう直子さん」。

金田 雄策さん（廻田町）



介護の世界も自共対決。サービス削る自民党。介護・福祉を支える共産党のさとうさんががんばってください。

植田とし子さん（本町）

日本共産党